

NEWS RELEASE

平成 19 年 7 月 2 日

電通、「第 2 回『緊急地震速報』に関する生活者意識調査」結果を発表
ー 緊急地震速報を受け取ったときにとるべき行動のうち、もっとも知られていないのは
「丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に移動する」と
「自動車の運転中には、あわててスピードを落とさない」 ー

株式会社電通は、今年 9 月からの緊急地震速報一般運用に向け、2006 年 9 月の『緊急地震速報』に関する生活者意識調査※1 に引き続き第 2 回となる「『緊急地震速報』に関する生活者意識調査」を実施し、その結果を発表した。

調査によると、対象者の約 8 割が緊急地震速報に「関心がある」と回答し、生活者は緊急地震速報に高い関心を持っていることがわかった。そして、約 7 割の人が「緊急地震速報はどのような音や言葉で伝えられるのか」「緊急地震速報を受け取った時にどのような行動をとればよいか」を運用前に知りたいと回答している。

また、昨年気象庁から発表された「一般向け緊急地震速報の利用の心得 ※2」の内容に沿って、緊急地震速報を受け取った時の行動について質問をしたところ、「頭を保護し、大きな家具から離れて丈夫な机の下などに隠れる」「従業員などの指示に従う」「ブロック塀や自動販売機のそばから離れる」などの行動については、7 割近い人が「知っている」と答えている。その反面、「自動車の運転中には、あわててスピードを落とさない」「丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に移動する」という行動を知っている人は 4 割に満たないという結果となり、緊急地震速報を受け取った時にどのように行動すればよいかという心得は、項目によって認知度にばらつきがあることがわかった。

今後、緊急地震速報利用の心得が広く周知され、人々がいろいろな場面において、地震に対する心構えができるようになることが期待される。

調査結果は次頁の通り。

※ 1 「『緊急地震速報』に関する生活者調査」

2006 年 12 月 22 日に発表したインターネット調査結果（同年 9 月実施）。

「緊急地震速報」への関心は高いものの、その内容や、受け取ることへの不安を感じると答えた人が多かった。

※ 2 「一般向け緊急地震速報の利用の心得」

気象庁発表の、緊急地震速報を利用した適切な避難行動についての指標。

『周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する』という基本的行動をもとに、

さまざまな場面における情報受信時の具体的な対応行動の指針を示している。

本件に関するお問合せ：

株式会社 電通 IMC プランニング・センター ソーシャル・マーケティング部 Tel 03-6216-8741

【調査結果】

■ 約8割の生活者が「緊急地震速報に関心がある」と回答

問「あなたは、この「緊急地震速報」に関心がありますか。」

(N=1241)

非常に関心がある	30.5%
やや関心がある	51.5%
どちらともいえない	12.4%
あまり関心はない	4.8%
まったく関心はない	0.8%

■ 約7割の生活者が「緊急地震速報を受け取った時にどのような行動をとればよいかを知りたい」。

問「『緊急地震速報』が一般市民に提供(本運用)される前に、あなたが知っておきたいことは何ですか。」

(N=1241)

「緊急地震速報」はどのような音や言葉で伝えられるのか	72.8%
「緊急地震速報」を受け取った時にどのような行動をとればよいか	71.3%

■ 「一般向け緊急地震速報の利用の心得」のうち、生活者にもっとも知られていない行動は「丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に移動する」、「自動車の運転中には、あわててスピードを落とさない」。

問「『緊急地震速報』を受け取ったときの行動として、あなたは次のようなことをご存知ですか。すべてお知らせください。」

(N=1241)

頭を保護し、大きな家具から離れて丈夫な机の下などに隠れる	77.0%
従業員などの指示に従う	74.1%
ブロック塀や自動販売機のそばから離れる	73.7%
あわてて外へ飛び出さない	71.1%
海のそばにいるときは、高台に移動する	69.1%
扉を開けて避難路を確保する	67.8%
壁・看板・割れたガラスの落下などに備え、ビルのそばから離れる	67.8%
その場でできる場合は火を消し、火元から離れている場合は無理して消火しない	66.5%
エレベータ利用中には、最寄りの階で停止させ、エレベータから降りる	65.1%
あわてて出口・階段などに殺到しない	62.5%
頭を保護し、揺れに備えて身構える	59.7%
山やがけのそばにいるときは、落石やがけ崩れに注意する	59.7%
自動車の運転中には、急ハンドル急ブレーキを避けて、安全な場所に停止させる	58.0%
自動車の運転中には、ハザードランプを点灯した後、ゆるやかにスピードを落とす	56.5%
吊り下がっている照明などの下から移動する	52.1%
鉄道・バス乗車中には、つり革・手すりなどにしっかりつかまる	51.4%
自動車の運転中は、後ろの車が緊急地震速報を聞いていない恐れがある事を考え、あわててスピードを落とさない	37.2%
丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に移動する	36.4%

【調査概要】

期間 : 2007年3月23日(金)～25日(日) 注: 能登半島地震発生前に実査完了
 対象エリア : 全国
 対象者 : 20-69歳男女 1241名
 手法 : インターネット調査